

東北・福島+埼玉=福の玉 が生まれ、ゆっくりふくらんでいきますように...

福玉便り

3月&4月
特別号

2021年3月1日発行

ふく たま だ よ り

通巻 第89号

発行:『福玉便り』編集委員会 NPO法人埼玉広域避難者支援センター・(一社)埼玉県労働者福祉協議会

協力:生活協同組合コープみらい埼玉県本部

連絡先:NPO法人埼玉広域避難者支援センター 〒330-0061 埼玉県さいたま市浦和区常盤 6-4-21 ときわ会館1F TEL0120-60-7722



東日本大震災追悼式 2021年3月11日(木)

迎える3月11日で、東日本大震災の発生から10年目となります。区切りの年として、皆様からは追悼式に対する様々な御意見・御要望が寄せられました。しかし、世間の流れは人々が集うことを遠ざけています。話し合いの結果、我々は当会のみで焼香・黙禱を行うことにしました。参列を望んでいた方々には大変申し訳なく思っており、当日の様子はYou Tubeにて配信することとしました。その際、可能な限り、被災地出身者の言葉を伝えたいと思っています。加えて当会の10年間の足跡となる品々も揃える予定です。

また右側に龍山院の写真を掲載しましたので、当日は心をひとつに黙禱ができればと思っております。

2021年3月11日 場所:龍山院

14:30:焼香 式辞

14:46:黙禱 撞鐘

協力 合同会社 映像工房たまき
有限会社 ワンツー・ワンツー

主催 東日本大震災に咲く会 ひまわり

問合せ 橘(タチバナ)080-3091-6215

YouTube アドレス: <https://youtu.be/704PGXj8BcU>



昨年3月11日の追悼式



牛山先生による「甲状腺検査&よろず健康講話」を開催します。

前号で「1月30日開催」とご案内しましたが、緊急事態宣言が発出されたため延期となりました。宣言解除を予想して開催日を決めましたが、検査ご希望の方は念のため事前にご連絡いただけますと幸いです。

午後の健康相談会はどなたでもお気軽にご参加ください。

場所がおわかりにならない方もご連絡ください。

お問い合わせは、福玉相談センター(0120-60-7722)まで。



日時: 2021年3月28日(日)

11:00より受付後、検査
13:30より健康講話

場所: 埼玉県男女共同参画推進センター

(With You さいたま) 4階視聴覚室セミナー室
(JR京浜東北線、高崎線・宇都宮線「さいたま新都心駅」から徒歩5分 JR埼京線(各駅停車)「北与野駅」から徒歩6分)

*感染防止対策をして開催いたします。入室時に手指の消毒、マスクの着用をお願いいたします

主催: 特定非営利活動法人埼玉広域避難者支援センター

3・11ユースダイヤログ

昨年一二月三日、編集部が担当する金城学院大学(名古屋)の授業の一環として、東日本大震災支援全国ネットワーク(JCN)による「三・一一ユースダイヤログ」が開催されました。この企画は、震災当時に小中高生だった被災地の若者が何を感じてきたのか、震災を経験しなかった若者に繋ぐという趣旨で開催されるものです。この日の企画では、震災当時に小学五年生だった、岩手県宮古市田老出身のK君と福島県郡山市出身のAさんにご登壇いただき、同い年の学生たちを中心に参加者が二人の話に耳を傾けました。内容を簡単に紹介します。

K君は、震災当日に体育館で卒業式の準備をしているところで地震に遭いました。先生の指示で校庭に逃げたところ遠くで砂ぼこりが見えたので、みんなで裏山に逃げて津波から助かりました。暗くなってから三陸鉄道の線路を歩いて親戚宅まで避難して、お祖母さんと合流したものの、お父さんと連絡が取れないまま避難先を転々となりました。その後、親戚宅でお祖母さんと二年過ごしましたが、お祖母さんはご親戚と折り合いが悪くなってしまい仮設住宅に移りました。災害公営住宅ができたのでお祖母さんと移り、高校の三年間を一緒に過ごしました。K君が仙台の大学に進学してからは、お祖母さんが地元に残るとい生活をしていました。

震災から四、五か月経った頃、消防団員だったお父さんは水門を閉めに行つて津波にのまれ、三〇〇メートルほど流された場所で見つかったとわかりました。K君とは友達のように仲良い父子でした。その知らせを聞いた時、「結構責任感強い父親だったんで、守ってくれたんだな」とい言いがたない」とい感情になりました。また、K君が大学を卒業した姿を見たいと言つてくれていたお祖母さんも、

お話を伺いながら、当時小学生だったお二人にこれほどの経験を背負わせてしまったことを思い知り、震災・原発事故さえなければご家族と平穩に暮らしていたらどうと胸が苦しくなりました。と同時に、十年の時を経て、同世代の人たちに話をしてくれたいことに感謝と頼もしさを感じました。

私事になりますが、編集部の原田は今年四月から再び埼玉県の大学に戻ります。当時の若者たちが今何を感じているのか、微力ながら若者同士を繋ぐお手伝いをしていきたいと思っています。(編集部・原田)

【東日本大震災、原発事故から10年 被災者 避難者 なんでも相談ダイヤル】

損害賠償請求、時効、生活費、家族、人間関係、新型コロナウイルスによる雇止めなど、不安・疑問・お悩み・お困りごと、なんでもお話しください。法律・こころ・福祉など、各方面の専門家がお待ちしています。

日時：3月6日(土) 10:00~22:00
3月7日(日) 10:00~22:00
電話番号：0120-220-683
(フリーダイヤル)
主催・問合せ：震災支援ネットワーク
埼玉
TEL 090-8879-0213 (愛甲)

昨年九月に亡くなりました。「高校の時、家事とかを祖母ちゃんがやってくれたので、離れて生活して申し訳ないな」と感じていました」と辛い気持ちを持ち打ち明けてくれました。

Aさんも、学校で地震に遭いました。窓ガラスが割れ、校庭に出ると地割れと吹雪がありました。夕方にお母さんの迎えで帰宅すると、家の中もめちゃくちゃになっていました。春休みに友達を遊びに誘うと、一人が山形に避難すると聞いて、その時は気にし過ぎなんじゃないかなと印象を受けていました。新年度が始まると、暑い時もマスク、帽子、長袖・長ズボン着用が義務付けられ、首から下げるカウターを持たされました。

お話を最後に、同世代の学生たちに向けて、K君からは「いつ何時こういうことが起きるかわからないので、身近な人をもうちょっと大切にしておけばよかったなと思います。何かしてあげるじゃなくとも、身近な周りの人をよく見ておくっていうか、話せるときにちゃんと話しておいてほしいっていうのが僕から

野菜を孫に食べさせたいお祖母さんと、検査していないものは食べさせたくないお母さんの間で衝突が起きるようになりました。また、Aさんに鼻血や心臓の痛みが度々起きるようになり、中学二年の夏休みに、以前保養キャンプでお世話になった兵庫県に母子で避難しました。

Aさんはお祖父さんとお母さんの関係について、「野菜を食べなかったら祖父が悲しむし、食べたら母が悲しむっていうところで、ほぼ毎日そういう決断を迫られていたのがすごく心苦しかったですし、原発事故さえなければっていう思いがぬぐえなかったです」と想いを打ち明けてくれました。

また、お話の後には、学生の質問に答えていただきました。「悩みを打ち明ける人はいましたか?」という質問に対して、K君は、「周りは心配してくれるんですけど、大丈夫?って聞き出そうとしてくる印象があったので、むしろそういう人に悩みは話せなくて。友達も、聞いてて楽しい話じゃないんで、個人的にこ

野菜を孫に食べさせたいお祖母さんと、検査していないものは食べさせたくないお母さんの間で衝突が起きるようになりました。また、Aさんに鼻血や心臓の痛みが度々起きるようになり、中学二年の夏休みに、以前保養キャンプでお世話になった兵庫県に母子で避難しました。

Aさんはお祖父さんとお母さんの関係について、「野菜を食べなかったら祖父が悲しむし、食べたら母が悲しむっていうところで、ほぼ毎日そういう決断を迫られていたのがすごく心苦しかったですし、原発事故さえなければっていう思いがぬぐえなかったです」と想いを打ち明けてくれました。

また、お話の後には、学生の質問に答えていただきました。「悩みを打ち明ける人はいましたか?」という質問に対して、K君は、「周りは心配してくれるんですけど、大丈夫?って聞き出そうとしてくる印象があったので、むしろそういう人に悩みは話せなくて。友達も、聞いてて楽しい話じゃないんで、個人的にこ

今号の発行は、生活クラブ生活協同組合埼玉の皆様のご支援をいただきました。ありがとうございました。

生活クラブの取り組みと暮らしの安全を求めて

生活クラブ生協では、2012年からリフレッショナル、甲狀腺検査活動、そして復興支援カンパ等を行っています。

東日本大震災から10年!まだ10年!皆さんは、どちらのイメージでしょうか?どちらにしても私達にとって大切なこと……それは3・11を忘れてはいけません。

あの日未曾有の出来事に直面し、どれだけ怖い思いをしたか。そして追い打ちをかけるように原発事故が起きました。

放射線量が上がり一



体どこまで汚染が広まっているのか?目に見えない恐怖と向き合ってきたこと、風評被害で福島産の野菜などが売れなかったこと……思い返すと、目に見えない恐怖ほど恐ろしいものはありません。それと正しい情報が知らされなかったことは、今思い出しても心が痛くなるような時期だったと思います。

まさに2020年がそうでした。さあ!これから始めよう!というときに、新型コロナウイルスの感染拡大となり、計画していた学習会、甲狀腺検査活動、リフレッショナル全てが中止になってしまいました。でも復興支援カンパだけは継続しました。そして2020年度は甲狀腺検査活動のみ行うことができました。

私達は3・11を忘れない!被災地の方からよくお聞きする声です。私達にとっても他人事ではありません。今でも

被災地で苦しんでいる方がいる状況だと思いますが「いつまでも被災者と言っていられない」という声も聞きました。ですが復興の道はまだまだ遠くです。私達に出来ること、それはちっぽけな事かもしれませんが声に出して伝えていきたいです。

自然災害は止められません。原発は止められません。皆の思い、考え方が一つ変わります。決して3・11を忘れない!福島の皆さん、また埼玉で会いましょう!

生活クラブ埼玉サステナブル政策委員会



各地からのお便り

『福玉便り』では2012年6月の創刊以来、埼玉県内各地の交流会情報をカレンダー・マップでご紹介してきました。今回、東日本大震災・福島原発事故から10年を迎えるにあたって、各団体の皆さんからメッセージをお寄せいただきました。

コロナ禍により交流会開催が難しい日々が続いていますが、再開の日に向けて、誌面上で交流を継続できればと思います。読者の皆様もぜひメッセージをお寄せください。

① 双葉町民によるボランティアカフェ(加須市)

旧駒西高校避難所で沢山の方にお力をお借りして始まった「Fカフェ珠寿」。

様々なご支援をうけ、現在では「双葉町民によるボランティアカフェ」として継続できています。この10年間、カフェを支えて下さったみなさまに、この場をお借りして心から御礼申し上げます。

新型コロナウイルスの影響で休業中ではありますが、一日も早く、また



皆さんとお会いしたいです。その時は、きっと元気な姿を見せてくださいね。カフェ一 同より



090-8879-0213(SSN・愛甲)

③ 双葉町老人クラブ女性会&さいがい・つながりカフェ(加須市)

そもその始まりは、旧記載高校の食堂で手芸をしながらのしゃべりから。その中に町の老人クラブ女性会の会長・副会長の



「加須支部」としてスタート。その後、場所を社協に移し、婦人部の方々の参加も得てにぎやかに続いています。これからも、手も動かし、口はさらに動かして、楽しい時間を過ごしたいと思っています。

080-5532-7380 (薄井さん)

④ 加須ふれあいセンター(加須市)

2021年は東日本大震災から10年の節目の年になります。しかし、加須市内には未だ400名を超える双葉町民が避難生活を送っています。

当センターはスタッフの高齢化もあり今年3月末で活動を終了しますが、スタッフ個々人は今後も避難者に寄り添う気持ちをもち続け、それぞれの立場で活動の精神を継続していきます。長い間のご支援・ご協力に感謝し、ご挨拶とします。ありがとうございます。

090-1650-2874 (富沢さん)

⑤ すくすくのあそび広場(加須市)

一般社団法人すくすく広場は、加須に避難された双葉の子どもさんたちとの「びえろのあそびひろば」の6年間の活動を受け継ぎ、市内で月1回の「すくすくのあそびひろば」子ども食堂と、毎木曜夕方の「小中高生勉強会」を4年間継続して来ましたが、昨年は、コロナ禍の影響で、その活動が大きく制約されてしまいました。代わりには休校中のお弁当配達、各方面からの食品をお届けするフチ・パントリー活動夏にはひとり親家庭を支援する「かぞぐるみおべん

とプロジェクト」秋からは埼玉県子ども食堂ネットワークの「どんぶり祭り」を開催するなど、精一杯に頑張っています。



②4 新座つながりカフェ(新座市)

毎月第4日曜日に新所沢公民館で実施しています。毎回、司法書士や社会福祉士などの専門家も一緒に輪の中に入って、その時々のお話についてお茶を飲みながら楽しく話したり情報共有しています。福島県内に帰還した方、遠く離れた場所に移住した方、お仕事や子育てなどで忙しい方、お仕事を子育てなどで忙

090-2402-9155 (谷森さん)

②5 青空あおぞら(所沢市)

毎月第4日曜日に新所沢公民館で実施しています。毎回、司法書士や社会福祉士などの専門家も一緒に輪の中に入って、その時々のお話についてお茶を飲みながら楽しく話したり情報共有しています。福島県内に帰還した方、遠く離れた場所に移住した方、お仕事を子育てなどで忙しい方、お仕事を子育てなどで忙

090-5345-8408 (松館さん)



か参加できない方が久しぶりに参加しても、いつもと変わらず和気あいあいと、ホッとできる場として、これからも続けていきます。コロナ禍の中、2020年12月27日に予定していた交流会から中断していますが、澄み渡った青空のような気分、皆様と楽しい時を過ごせるのを楽しみにしています。

090-8879-0213(SSN・愛甲)

②7 おあがんしよ交流会(ふじみ野市)

交流会の運営形態を変えようとして話し合いを持ちました。「全員で進めて行こう」と、実行委員会を卒業して全員が運営委員の「お

て来ました。そしてそれらの活動の中で、双葉の方々との新しい出会いもあり、とても励みに感じています。これからも、ぜひよろしくお願ひします。

090-2411-8598 (戸恒さん)

⑥ オバトン(加須市)

3・11はきっかけで、震災後に加須にいられた双葉の方々との出会いが縁です。10年目だからなどの区切りはなく、ずっとつながりを持ち続けたいという思いで活動しています。支える、支えられるはお互い様で、どちらかと言うと私たちオバトンのメンバーが、町民の方々からパワーを頂いています。

コロナ禍の制限はありますが、「町民の方が健全を保つには」という思いを持ちながら、これからも可能な範囲で交流を深めたいと思います。

090-6526-8560 (藤井さん)

⑧ 東日本大震災に咲く会(まわり(上尾市))

今年の追悼式は会議の結果、ひまわり会員のみの参列と致しました。例年のごとく黙祷の際には、龍山院の住職が鐘を撞いて下さる事になっています。また、参列が叶わない方々に向けて映像工房たまきの協力で当日の模様はYouTube配信の運びとなりました。そして、配信を観れる環境がない方が黙祷出来ます様に、龍

山院の写真が手元に届く様に福玉便りの力添えを得ました。皆様がおののやり方で3月11日を乗り越えられればと祈っています。

080-3091-6215 (橘さん)

⑩ くまがや結の会(熊谷市)

あの震災から10年の月日が流れました。時の流れの早さに驚く程です。振り返れば節目の年が「もう10年・まだ10年」。生活や心境も時の流れに押され、環境に少しずつ馴染んで来たように思います。昨今、「異常気象・災害・疫病」と命を脅かされる事ばかりで、目先の事に振り回されています。先人からの言葉に「10年ひと昔」とおり、「悲劇の日」は年月を重ねる度「風化」の一端を辿っている様に感じます。目まぐるしく動く現状変化の中、私も体験者が震災と原発事故の恐ろしさを後世に伝える事が使命だと思います。

090-7661-9236 (林崎さん)

⑪ 羽生つながりカフェ(羽生市)

羽生でも交流会を、との声を受け、2012年に始めました。毎月の交流会の他に、年に一度の羽生女性センター祭りでは原発避難に関わる写真展を開催してきました。写真を通して市民の方々と交流し、話が弾んだことも良い思い出です。現在は休会中です。

②8 ニこカフェ@川越(川越市)

私達ニこカフェ@川越は、避難者が本音で語れる場を作り、肅々と続けることが大切だと考えております。10年と世間は過去形で語られますが、私達避難者にとっては現在進行形の被害が続いています。これ以上、世間の無理解と自分の境遇とのギャップに苦しむことのないように、避難者と市民との地域共生を目指し、連帯しながら声を大にして世間に「原発事故は人災です、今も原子力緊急事態宣言中です」と伝えていきたいと思ひます。

090-5345-8408 (松館さん)

3月21日(祝) 14:00~15:30 テーマ:お彼岸に日想観と「弱法師」(予定)

090-6128-1948 (小林さん) <https://gokutonokai.wixsite.com/2018>

③③ つながり(毛呂山町)

090-9032-8116 (河井さん)

が、また何かできたらいいな、と思います。

080-5532-7380 (薄井さん)

②② お茶つな(久喜市)

090-6855-7140 (木幡さん)

②③ いきがいサロン(杉戸町)

0480-31-0055 (すぎとSOHOクラブ小林さん)

②④ 春日部つながりカフェ(春日部市)

始まったばかりの頃、ぼぼら春日部で「今日はだれか来るかな」と思いながら実施していたこの交流会も会場をコーププラザ春日部に変えた今では、多くの方にご参加いただけるようになりました。

カフェでは、毎回、司法書士が参加し、土地家屋の名義変更や相続手続など、暮らしの中で起こるさまざまな悩みをどのように解決していくかについてのお話を提供させていただきます。参加者で一緒に考え、共有していきます。これからも、ふるさと想いながら、つながり続けて行きましょう。



090-8879-0213(SSN・愛甲)

3月11日の震災時：寒く暗い体育館。毛布一枚無い冷たい床にどれだけの人が居たのだろうか？配布するパンと水も途中から無くなり、全員には行き渡りません。母を迎えに行った時に持って来た古いラジカセ、夜中でしたが体育館にいる人達の要望で音を大きくして皆で聴いたあの時を生涯忘れ無いと思います。

昨年12月姑が病院で亡くなりました。検査入院していましたがコロナで面会できないまま：顔を見たのは安置室。あの震災が無ければ、安置室に1人で置く事は無いのに！田舎はろうそくと線香を絶やす事無く、皆が亡くなった人を見守っているのがあたり前。この時ほど、原発事故を恨んだ日は有りませんでした。

10年は私や私の親世代には言葉に言い表せない年月です。皆心に深い傷を負っています。

080-5532-7380、渡部まゆみさん) tunagari.satama@gmail.com

毎月第4日曜日に新所沢公民館で実施しています。毎回、司法書士や社会福祉士などの専門家も一緒に輪の中に入って、その時々のお話についてお茶を飲みながら楽しく話したり情報共有しています。福島県内に帰還した方、遠く離れた場所に移住した方、お仕事を子育てなどで忙しい方、お仕事を子育てなどで忙

私達ニこカフェ@川越は、避難者が本音で語れる場を作り、肅々と続けることが大切だと考えております。10年と世間は過去形で語られますが、私達避難者にとっては現在進行形の被害が続いています。これ以上、世間の無理解と自分の境遇とのギャップに苦しむことのないように、避難者と市民との地域共生を目指し、連帯しながら声を大にして世間に「原発事故は人災です、今も原子力緊急事態宣言中です」と伝えていきたいと思ひます。

福島原発事故責任追及訴訟 第37、38回期日

原告本人尋問です(3/3:午後3名、3/24:5名を予定)。マスク着用のうえ、ぜひ一度傍聴にご参加下さい。

3/3(水)11:00、3/24(水)10:00

開廷時間の30分前に傍聴整理券配布が締め切られます。それより前にさいたま地裁B棟前にお集まりください。

<http://fukusaishien.com/>

048-960-0591(みさと法律事務所)

一緒に映画をみませんか？

この10年間に何が起こったのか、今どのような状況にあるのか、ぜひ多くの人に知ってほしい。その強い思いによって制作された作品です。

福玉上映会

日時：3月14日（日）13：00～16：00

13：00～13：45 『終わりのない原子力災害』

14：00～15：10 『ふるさと津島』

15：10～16：00 交流の時間

場所：埼玉県男女共同参画推進センター

4階 視聴覚室セミナー

（JR京浜東北線・高崎線・宇都宮線「さいたま新都心駅」から徒歩5分、JR埼京線（各駅停車）「北与野駅」から徒歩6分）

*感染防止対策をして開催いたします。入室時に手指の消毒、マスクの着用をお願いいたします。

主催：特定非営利活動法人埼玉広域避難者支援センター

お問い合わせは、福玉相談センター（0120-60-7722）まで。



制作：アジア太平洋資料センター（PARC）／
国際環境 NGO FoE Japan
事故とその後の政策によって振りまわされてきた人びとの声に耳を傾けて、本当の意味での「復興」とは何かを問いかけます。



製作：ふるさと津島を映像で残す会
原発事故から9年、今も帰還できない福島県浪江町津島。除染に伴い家屋の解体が始まった。家もなく人も戻らない津島は、やがて地図から消えゆく。100年後の子孫のために、津島全520戸の最後の姿をドローン空撮映像で記録。

原子力損害賠償紛争解決センター（ADRセンター）

原発事故による損害賠償の請求については、東京電力との直接交渉や裁判以外に、国の「原子力損害賠償紛争解決センター（ADRセンター）」を利用することができます。原発事故から10年が経過する中で、今からでも申立てが可能です。

このADRセンターでは、弁護士資格を有する仲介委員が中立・公正な立場から和解仲介を担当します。裁判よりも手続きが簡便で、ひとりでも申立てができます。

仲介費用は、書類の送料などの実費以外は無料です。賠償について国に設置された審査会が定める「中間指針」に明記されなかったものについても、個別の事情に応じて和解案を提示しています。

ADRセンター発足以来、約2万4000件、10万人を超える申立てを受け付けており、これまで仲介手続きを終了した案件のうち、8割以上が和解成立に至っています。また6割以上が弁護士を立てずに申立てられています。弁護士を立てずに申し立てる場合、個人向けの和解仲介手続申立書が準備されており、氏名のほか、要求の内容などをチェックし、必要事項を記入するだけで簡単に申し立てることができるよ

うになっています。また、事案によっては、申し立て後にADRセンターから電話でヒアリングがあり、東京電力への請求が的確に行われるようサポートしています。

東京電力との直接の交渉で示された賠償金額では納得できない場合、東京電力との直接の交渉で被害を申し出たが賠償がなされない場合、裁判よりも簡易・迅速な手続で賠償を実現したい場合など、次のフリーダイヤルへお気軽にお問合せください。

文部科学省 原子力損害賠償紛争解決センター
0120-377-155 受付時間（平日：10:00～17:00）

なお、弁護士を立てずに申し立てる場合、ご依頼内容が的確に東京電力に伝わらない場合がありますので、一度、震災支援ネットワークまでご連絡下さるようお願いいたします。

また、その他なんでも心配事、悩み事などありましたら震災支援ネットワーク埼玉 事務局 愛甲までご連絡ください。携帯電話：090-8879-0213